

オスプレイ配備反対署名 15,000 筆を提出～前回分との合計で 33,000 筆に

2017年3月16日、オスプレイの横田基地への配備断念と飛来中止を求めて、署名15,000筆を持参して、政府(外務省と防衛省)要請を行いました。私たちは引き続き署名運動を行っていきます。



オスプレイ配備反対要請行動～政府や北関東防衛局、周辺自治体にも



2016年6月24日北関東防衛局に要請

オスプレイ横田配備反対連絡会では、署名活動や、政府関係省と地方事務所・東京都・基地周辺自治体などへの要請行動、反対集会の開催などを行っています。また、連絡会で得た情報を周辺自治体に提供する活動も行っています。

2016年12月の事故は、特殊作戦機MC-130Jの夜間空中給油中に発生



MC-130によるオスプレイへの空中給油

オスプレイは2つのプロペラ部分の間が狭いので、空中での給油は非常に難しく、特に夜間の空中給油は危険を伴うとされています。特殊作戦機MC-130によるこのような訓練が沖縄の指定空域外で行われていたことは驚きました。

出典記載のない写真：羽村平和委員会、横田・基地被害をなくす会、米軍Webサイトなど

オスプレイの横田基地配備反対！オスプレイは日本の空を飛ぶな！

—署名や反対運動にご協力ください—

首都東京に広大な米軍・横田基地があります。戦後70年もの間、ベトナム戦争やイラク戦争など、海外の戦争に直接関わった基地です。そして今、米空軍のCV-22オスプレイと特殊作戦部隊の配備が2019年にも(当初発表の2017年が変更)始まるとしています。横田基地周辺に、さらなる危険と被害が増大しようとしています。



2016年12月13日、沖縄県名護市安部沿岸部に墜落・水没した普天間基地配備のMV-22オスプレイ。(撮影・提供：牧志治)

◆オスプレイ横田配備反対連絡会：横田基地問題を考える会、横田基地の撤去を求める西多摩の会、横田基地もいらない市民交流集会実行委員会、横田・基地被害をなくす会、第9次横田基地公害訴訟原告団(TEL&FAX 042-542-5625)、第2次新横田基地公害訴訟原告団(TEL&FAX 042-552-4451)

オスプレイの事故や故障が続出 (2016年12月13日・沖縄県での墜落事故以降)

- 2016年12月13日 沖縄県名護市沖で墜落（政府発表は「不時着水」）



- 2016年12月13日 普天間基地に胴体着陸



- 2017年1月28日 イエメンで墜落（米軍は機体を爆破）



- 2017年8月5日 オーストラリア・クイーンズランド州沖で普天間基地配備機が墜落し3名死亡



- 2017年9月29日 シリアで墜落
- 同日、沖縄県新石垣空港に緊急着陸



- 2017年8月29日 大分県大分空港に緊急着陸



今、横田基地は…危険がいっぱい

- 2017年3月 MV-22 オスプレイ 6機が訓練拠点として使用



2016年末の墜落事故の原因究明がなされないまま、2017年3月5日から3月22日までの18日間、オスプレイが横田基地に居座った。相馬原演習場（群馬県）や関山演習場（新潟県）で日米合同演習、東富士演習場で離着陸訓練を行った。

また、その際、訓練地との往復コースを外れた長野県各地（長野市や諏訪市など）から目撃情報が寄せられた。さらに、横田基地においては、離着陸の際に旋回訓練やタッチ&ゴー訓練、ローパス訓練を行った。

- 特殊部隊のパラシュート降下訓練は、ますます激しくなっている



2012年1月以降、横田基地では特殊部隊による人員降下訓練が行われている。

2017年は、4月までの間に延べ300人の兵士が横田基地内を目標に降下訓練を行った。日本政府は、沖縄県伊江島での訓練はSACO合意に基づくが、横田での訓練は安保条約第5条が根拠だと言っている。

- 無人偵察機グローバルホークが2017年5月から半年間配備



- 2017年5月～6月，在韓米空軍A-10やF-16が35機飛来



米軍の「レッドフラッグアラスカ」演習参加の在韓米軍A-10（14機）とF-16（15機）、そして緊急に韓国空軍機KF-16 戦闘機6機が飛来し、離着陸を行った。戦闘機も使用する拠点基地化だといえる。

三沢基地に配備されていた無人偵察機グローバルホーク5機が、同基地の滑走路工事を理由に、2017年5月1日から10月31日まで横田基地に配備された。全長は約15m、全幅は約40mで、2017年8月現在4機が毎日のように情報収集に運用されている。